

英語も選べる私立中入試



最前線

大都市部を中心に、中学入試が1月中旬から2月にかけてピークを迎える。文部科学省が小学校の英語を教科化する方針を打ち出すなか、英語を入試科目に取り入れる私立中が増えた。知識量より「思考力」を問うとして、適性検査型の試験を行う中学も目立っている。
(山田睦子)

■教科化にらみ
小学5、6年生で英語が教科化されるのは2020年度だが、英語学習への関心は高まっており、塾で学ぶ子も多い。中学入試の模試を行う「首都圏模試センター」(東京都)によると、帰国生枠以外で英語を入試

首都圏 今年には倍増の30校超

科目とする首都圏の私立中は、30校を超える。約半数は今年から導入。希望者が選択して受ける方式が多い。

東京都大付属中では今年、算数、作文と英語で選抜する「グローバル入試」を始める。若干名の募集で、英語教室で学習した子や、国内のインターナショナルスクール出身者らの受験を想定し、英検準2級(高校レベル)程度の出題を行う。「英語教育に関心が高い家庭が増える中、小学生時代に学んだ成果を生かしてもらえれば」と同校。入学後は外国人教師らの特別授業も行い、語学力向上を図る。

横浜市の桐蔭学園中と桐蔭学園中等教育学校でも、今年から英語を導入。国語、算数、英語から2科目を選ぶ方式などを募集人員の2割程度の枠で行う。英検3級(中学卒業レベル)程度の内容で、英作文も出す予定。同校では「グローバル社会で活躍する人材に成長してもらいたい」と話す。東京都の山脇学園

中も来年、英語、国語、算数で受験する枠を設ける予定だ。